解 説 第 2 章:辰野町の森林・林業と現状



桜満開の"たつの海"とアカマツが広く分布する大城山

町の面積の 87%が森林 ② 緑豊かな町です ② 森林構成にも特徴があります!





2-1. 辰野町の森林

2023年(令和5年)4月1日の長野県森林資源データによる町 の森林構成は次のとおりです。



< 森 林 >

- ← 長野町の総面積は 16,920ha
- 森林面積は14,767ha(国有林・民有林含む:14,766.86 ha)
- ▲ 総面積の87.3% (森林率)
- 民有林面積は10,851ha(10,850.87ha)と約73%
- ▲ 民有林のうちアカマツを主体とした人工林の面積は7,020ha (7,019.48ha)
- 医有林面積の所有形態別の内訳は、公有林が 1,797ha (1,796.88ha) で 12%、私有林が9,054ha (9,053.99ha) で 61%を、中でも集落有林が一番多く 3,304ha (3,303.57ha) で民有林面積の 30%

注1: 長野県における森林の単位は0.01haから。

注2:森林率は国際的(国際連合食糧農業機関: FAO 報告)に小数第1位表記。本文中の森林率は小数第1位表記とします。

(1) 辰野町の森林構成

令和 5 年 4 月 1 日現在の辰野町の森林面積は 14,767ha(14,766.86ha)で、国有林が 3,916 ha (3,915.99ha)、民有林が 10,851ha(10,850.87ha)です(図 2-1)。総森林面積では県内 77 市町村中 25 番目、国有林は 28 番目、民有林は 18 番目の規模(広さ)となっています。

森林率(森林面積・総地域面積)は、長野県全体では 78.0%、上伊那全体では 79.4%となっていますが、辰野町は 87.3%で、県内市町村中 18 番目の割合を占めています。

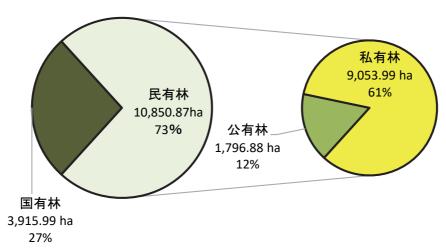


図2-1 辰野町の国有林・民有林面積とその割合



民有林の森林に占める針葉樹と広葉樹の割合は、針葉樹が85%、広葉樹が15%で、長野県全体の割合や上伊那地域と比べると<u>針葉樹が圧倒的に多く</u>なっています(図2-2)。



民有林の人工林の割合は65%、天然林は34%で、長野県全体では人工林44%、天然林54%、上伊那地域では人工林60%、天然林38%と比べて、町は人工林率が高くなっています(図2-3)。

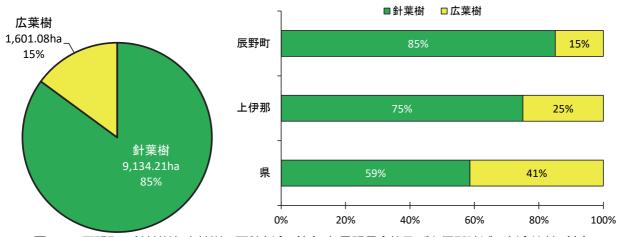


図 2-2 辰野町の針葉樹と広葉樹の面積割合(左)と長野県全体及び上伊那地域の割合比較(右)

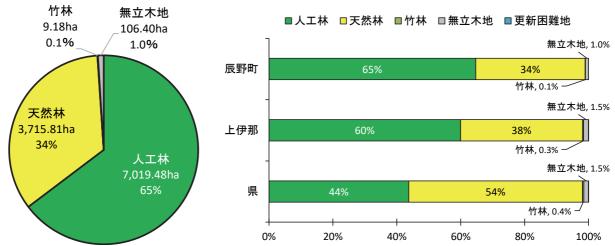
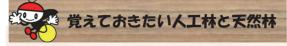


図 2-3 辰野町の人工林と天然林の面積割合(左)と長野県全体及び上伊那地域の割合比較(右) ※無立木地は伐跡、未立木地、岩石地、崩壊地、はげ山、林道敷の面積 ※辰野町には更新困難地はなく、上伊那地域では 7.71ha、県全体では 44.37ha ※竹林と無立木地は小数第 1 位表記



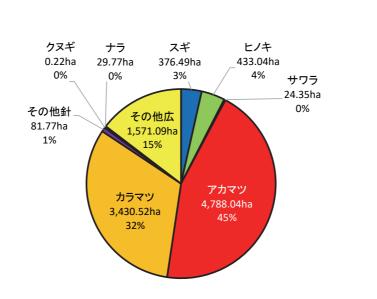
人工林:植栽など、人の手によって仕立てた森林。天然(自然) 林に対する語。一般的には人工造林による森林を指すことが多く、日本では植栽による造林が普通。

天然林: 主として天然の力によって造成された森林。



樹種構成はアカマツが最も多く 45%を占め、次いでカラマツが 32%、その他広葉樹が 15%、ヒノキが 4%、スギが 3%となっています。長野県全体ではその他広葉樹が最も多くを占め 37%、次いでカラマツが 27%、アカマツが 14%、スギとヒノキが 8%となっています(図 2-4)。

県全体と比較すると<u>辰野町ではアカマツ林が広く分布</u>しています(図2-5~図2-6)。





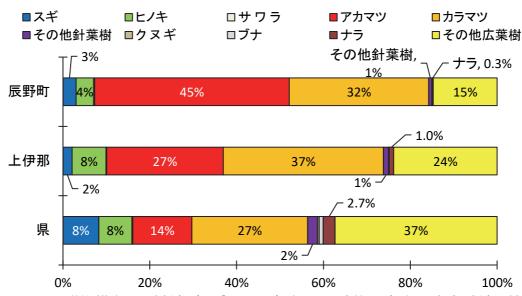


図 2-4 辰野町の樹種構成の面積割合(円グラフ:上)と長野県全体及び上伊那地域の割合比較(右)

※民有林の森林構成で、立木地の主要樹種面積(未立木地は含まない)

※比較グラフ(下)の広葉樹は小数第1位表記

※辰野町にブナ林はなし

※「その他針」はその他針葉樹、「その他広」は「その他広葉樹」



第1章 第2章 第3章 第4章 第5章 第6章

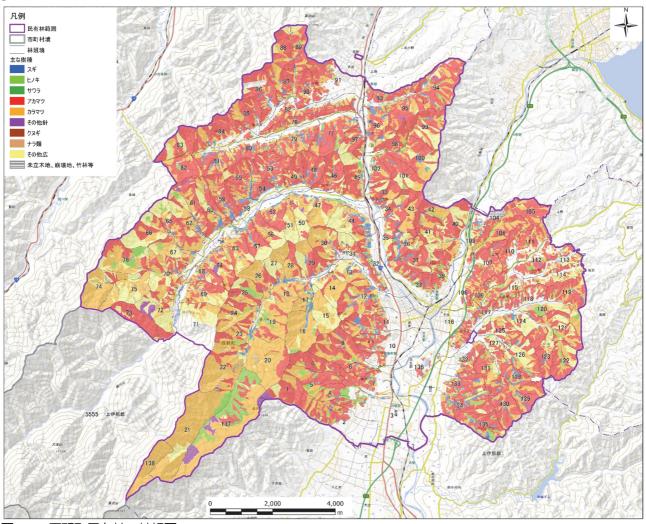


図 2-5 辰野町民有林の林相図 ※「国土地理院長承認(複製)R5JHf165」

町の針葉樹と広葉樹の齢級構成(5 年分割の林齢: $1\sim5$ 年=1 齢級)は、針葉樹、広葉樹とも 12 齢級($56\sim60$ 年生)以上に偏っていて、針葉樹では 8 割以上を占めています(図 2-6、図 2-7)。長野県全体では 10 齢級($46\sim50$ 年生)以上が多くなっていて、針葉樹のピークは 13 齢級($61\sim65$ 年生)で、12 齢級以上の割合は 7 割となっています(図 2-6 右)。

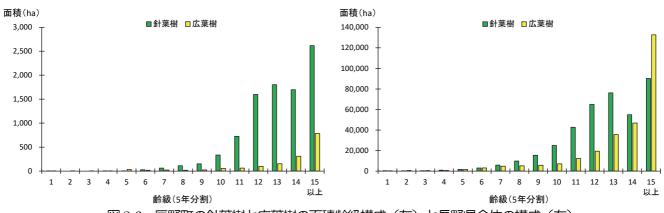


図 2-6 辰野町の針葉樹と広葉樹の面積齢級構成(左)と長野県全体の構成(右)

※民有林の森林構成



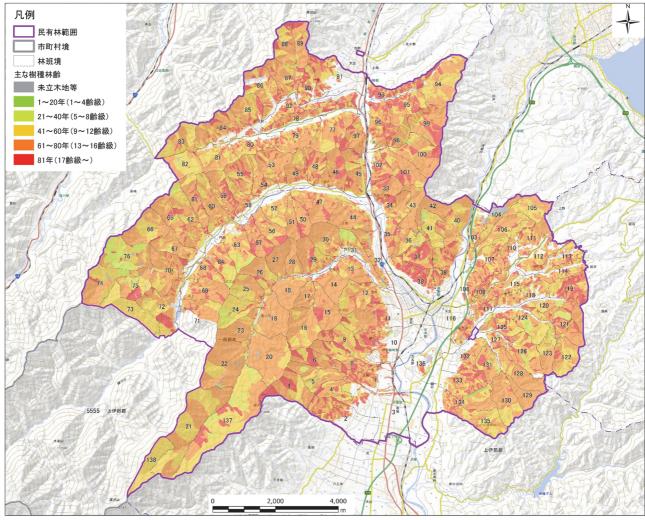


図 2-7 辰野町の齢級構成(民有林全体) ※「国土地理院長承認(複製)R5JHf165」

町の主要樹種であるアカマツとカラマツの齢級構成は、アカマツは 15 齢級(76 年生)以上がその 3 割を占め、カラマツは 12 齢級(56~60 年生)以上に偏っています。県全体でもアカマツは 15 齢級(76 年生)がその 3 割を占め、カラマツは 12 齢級(56~60 年生)以上に偏っています(図 2-8)。 県全体においても "森林の少子高齢化" となっていますが、町も同様で、特にアカマツの高齢化と

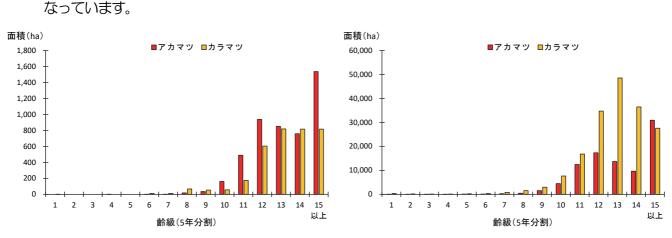


図2-8 辰野町のアカマツとカラマツの面積齢級構成(左)と長野県全体の構成(右)※民有林の森林構成



人工林の樹種構成はカラマツが最も多く 49%を占め、次いでアカマツが 38%、ヒノキが 6%、スギが 5%、広葉樹はわずか 1%となっています(図 2-9)。樹種の分布は小横川川流域と横川川流域の奥地にカラマツが広く分布しています(図 2-10)。

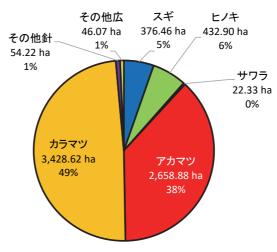
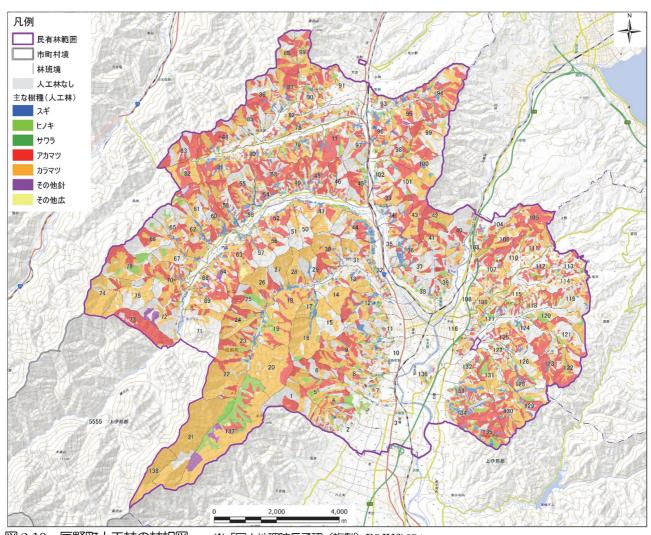


図 2-9 辰野町人工林の樹種構成の割合 ※民有林の森林構成





※「国土地理院長承認(複製)R5JHf165」

